

点訳資料 7

外国語の表記(点字部分 凸面書き)

2009年10月31日  
2016年 9月24日改訂  
楽譜点訳の会[星]

I. 表記の基本

1. 英語の表記法

- ① 段落の始めは3マス目から書く。
- ② ピリオドの後1マス空け。2マス空けは原則としてしない。  
但し、やむを得ず楽譜の前置符  $\text{::}$  を使用する場合、当会では、その語のあと2マス空けることとする。
- ③ カッコ ( $\text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::}$   $\text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::}$ ) の前は1マス空ける。日本語とは違い続けられない。
- ④ イタリック符のついた単語が3語まではそれぞれにイタリック符を前置する。4語以上るとき、最初の語にイタリック符を2個前置、最後の語にイタリック符を1個前置する。(イタリック符の連続)  
*gakufu tenyakuno kai hoshi*  
 $\text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::}$
- ⑤ イタリック符、大文字が続く場合、イタリック符・大文字の順番に書く。  
*Japan*  $\text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::}$
- ⑥ ひとつの単語が全部大文字の場合、二重大文字を使用。  
WHO  $\text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::}$   
全部大文字の単語が複数続く場合は、それぞれの単語に二重大文字を使用。  
WHO, UNESCO, USA, UK  
 $\text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::}$
- ⑦ 注記号は、単語の後に1マス空けて記す。  
WHO, UNESCO, USA\*, UK  
 $\text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::}$

⑧ 生没年など範囲をあらわす数字はハイフンでつなぐ。

1234～1987 ⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦

## 2. そのほかの外国語

一般的には英語に準ずるが、各外国語で独自の表記があるので注意する。

① 大文字は 4・6 ⠠

② イタリックは 4・5・6 ⠠⠨

③ 大文字、イタリックの連続については、語によってそれぞれ決まりがある。

## 3. 情報用の点字(eメール、ホームページ・アドレス等)

① 情報用のカッコで囲む。

⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦

② 「点訳のてびき」「日本点字表記法」等に記載のものを使う。

<hoshi@ml.circle.ne.jp>

⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦

③ ホームページなど長いもので2行にわたる場合、区切りの良いところで切り、2行目の行頭に4の点を置く。このとき、行末が余ってもよい。

<http://www.nippontenjitoshokan.co.jp/>

⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦

⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦⠠⠨⠢⠦

## II. 解説文中の表記

### 1. 外国語文中

英語:2種英語

独語・仏語他:フルスペル。それぞれウムラウト、アクセント付き文字等使用句読点などは、各国語の表記に従う。

### 2. 日本語文中の外国語

原則として英語の表記を使用する。(大文字6の点、イタリック4・6の点)

フルスペル

3. 強弱記号の *f*, *p* などにはできるだけ書き下す。

*forte*, *piano* フォルテ、ピアノなど。

4. 日本語と外国語が混じったものについて、外国語を主体とするか、日本語を主体とするかは、全体のバランスを見て決める。特に、カッコ、カギなどを使った文章の場合、それぞれの役割を確認して使用する。

例:

*Ombra mai fu* (*largo*) 樹木の陰で(ラルゴ)

①は、コーテーションや第一カギは強調の意味になるので不適当。

② ③は良いが、この場合、③の方法が一番適切と思われる。

①    ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠   ⠠⠠⠠⠠   ⠠⠠   ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠   ⠠⠠⠠⠠⠠⠠   ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

②    ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠   ⠠⠠⠠⠠   ⠠⠠   ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠   ⠠⠠⠠⠠⠠⠠   ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

③    ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠   ⠠⠠⠠⠠   ⠠⠠   ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠   ⠠⠠⠠⠠⠠⠠   ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

参考資料:ドイツ語点字 文章記号

	凸	凹	備 考
,	⠠	⠨	コンマ
;	⠠	⠨	セミコロン
:	⠠	⠨	コロン
.	⠠	⠨	ピリオド
'	⠠	⠨	アポストロフィ
?	⠠	⠨	疑問符
!	⠠	⠨	感嘆符
*	⠠	⠨	星印
-	⠠	⠨	ハイフン
—	⠠	⠨	ダッシュ
…	⠠	⠨	点線
/	⠠	⠨	斜線
“	⠠	⠨	開きコーテーション
”	⠠	⠨	閉じコーテーション
‘	⠠	⠨	開きシングルコーテーション
’	⠠	⠨	閉じシングルコーテーション
(	⠠	⠨	開きカッコ
)	⠠	⠨	閉じカッコ
[	⠠	⠨	開き角カッコ
]	⠠	⠨	閉じ角カッコ
§	⠠	⠨	パラグラフ符
Art.	⠠	⠨	章表示符
&	⠠	⠨	連結符 (und)